＜報告＞

わが国の精神看護学における視聴覚教材の研究動向と課題
―映画およびドキュメンタリー番組に焦点をあてた効果の検討と学生の認識―

Research Trends and Issues of Audiovisual Materials in Psychiatric Nursing in Japan
―Examination of Effects and Student's Recognition Focusing on Movies and Documentary Programs―

毛利智果[1]，前田律子[1]，岡本典子[1]，龍野浩寿[1]
Chika MOURI, Ritsuko MAEDA, Michiko OKAMOTO, Hirotoshi TATSUNO

１常葉大学健康科学部看護学科
Department of Nursing, Faculty of Health Science, Tokoha University

【要　旨】

本研究の目的は，これまでの精神看護学の授業における視聴覚教材の利用状況や研究の国内動向をまとめたうえで，映画やドキュメンタリー番組の利用の効果とその授業を受けた学生の認識を明らかにすることである．文献は，医学中央雑誌 Web 版を使用し，「精神看護学」「精神看護」「授業」「講義」「視聴覚教材」をキーワードとし，目的に合致した 11 文献を検討した．結果は精神看護学における視聴覚教材の論文数は近年増えており，その論文数は全体の教材論文数の 5 割であった．動画利用の効果を検討した研究より学生が学んでいたことは「精神疾患の理解」「対象理解」であった．また学生の認識を調査した研究より「人としての理解」「精神に障害を持つ人としての理解」が示された．今後精神看護学の視聴覚教材の研究では，教員が視聴覚教材を用いる目的を明確にし，学生がどの時期に視聴するかを十分に検討した上で視聴覚教材を選択し決定することが課題になると考えた．

Key Words：精神看護学，授業，視聴覚教材，学生の認識，教育評価
Psychiatric Nursing, Class Audiovisual materials,
Student's recognition, Educational evaluation

1.1.　緒言

精神看護学は精神保健看護学ともよばれ，広く人間の心の健康について学ぶこと，さらには精神疾患を特殊な疾患としてではなく，人間にとっての健康の 1 つの局面としてとらえる[1)]学問である．心の健康から不健康という状態は連続体であり，WHO は「精神的健康とは，単に精神障害でないということではない．それは，一人一人が自らの可能性を実現し，人生における普通のストレスに対処

でき，生産的にまた実り多く働くことができ，共同体に貢献することができるという，十全にある状態である」[2]としている．

精神看護学を学ぶ学生にとって目に見えない心の健康を理解することは困難を伴う．金山らは「学生は精神疾患や精神疾患患者と接触する機会が少ないため，患者理解の一助として，学生が現実的イメージをもてるような教育方法を選択する必要がある」[3]と述べているように，机上の授業から教材を工夫し，演習から実習を通して，心の健康や精神の障害に対して理解を深めることができるような教授方法が求められている．また鈴木は「看護学教育において教材は授業展開に必要不可欠な普遍的要素である」[4]と述べており，教材の作成・選択から評価は，授業の質を向上させるための重要な要素となる．

教材の定義は，日本教材学会によると，「授業において指導すべき教育内容を学習者の学習課題として具体化した材料である」[5]とされている．教材の種類の１つとして，視聴覚教材がある．視聴覚教材を活用するメリットは，学習者の興味を喚起し印象に残る資料を提示することが可能であることが挙げられる．一方で，デメリットは以下の３点とされ，①学習者の集中が続かない②教材の目的が伝わりにくい③教員と学生とのコミュニケーション不足が生じやすい[6]と先行文献で述べられている．このような活用のメリット，デメリットを意識して，教員は視聴覚教材を活用する必要がある．

篠原は，映像から学ぶ精神障害者の病いの体験という論文で1962年以降，精神障害を素材とした映像作品は国内外で34あることを示している[7]．一方で谷本は看護系大学における精神看護学教育の内容と課題の研究結果の中で，教員が困っている点として「視聴覚教材の不足」があり，視聴覚教材の活用には課題がある[8]と述べている．教員はこのような状況において教材として活用する映像を選択し，授業で映写する際には視聴する目的を説明し，視聴後の振り返りを効果的に行うことが，大切な授業設計であると考えられている[9]．

筆者の所属する大学の精神看護学の授業では，精神障碍者の障害特性を理解することを目的として，当事者に体験を語ってもらう，当事者の手記などのナラティブ教材を取り入れる等の工夫をしている．また視聴覚教材も用いている．具体的には２年生前期の精神看護学概論の授業で映画「ビューティフルマインド」を視聴し，「こころを病むこと」について感じたことや考えたことをテーマとしてレポートにまとめることを課している．この映画の視聴を含め，概論において心の健康や心の機能，精神の障害について学び，２年生後期で精神看護援助論Ⅰ（病態，心身のアセスメント），３年生前期で精神看護援助論Ⅱ（援助の方法論）を学び，３年生後期に精神科病院で実習を行うという流れを組んでいる．

このような流れの中で，今後本学において視聴覚教材を効果的に用いるための検討材料として，これまでの精神看護学における視聴覚教材に関する研究をまとめ，課題を明確にしたいと考えた．

1.2.　研究目的

本研究目的は，これまでの精神看護学の授業における視聴覚教材の利用状況や研究の国内動向をまとめた上で，映画やドキュメンタリー番組の利用の効果とその授業を受けた学生の認識を明らかにすることである．

2. 研究方法

2.1.　用語の定義

視聴覚教材とは，古藤[10]の認知・知覚作用に視点をおいた教材の分類における定義を用い映画，放送，VTR，映像CD，DVD等

とする.

2.2. 文献検索方法

文献検索は医学中央雑誌Web版を使用し，2020年8月3日に，2001年から検索日までに発表された論文を5年刻みにし，以下の3段階で行った.

第1段階は「(精神看護/TH or 精神看護/AL) or 精神看護学/AL」and「(教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL」と，「(精神看護/TH or 精神看護/AL) or 精神看護学/AL」and「(教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL」and「教材/TH or 教材/AL」および,「精神看護/TH or 精神看護/AL) or 精神看護学/AL」and「(教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL」and「視聴覚教材/TH or 視聴覚教材/AL」を検索キーワードとして検索を行った.

第2段階は「(精神看護/TH or 精神看護/AL) or 精神看護学/AL」and「(教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL」and「視聴覚教材/TH or 視聴覚教材/AL」を検索キーワードとして該当した文献の中から，解説・特集と研究対象者が看護学生以外のものや実習場面を用いたものおよび授業全体の評価を除いた11文献に絞り込んだ。

第3段階は第2段階で絞り込んだ文献の中から，映画およびドキュメンタリー番組の利用の効果を検討した3文献と学生の認識を調査した3文献の合計6文献に絞り込んだ.

2.3. 分析方法

上記文献検索方法にそって，以下の3段階で分析を行った.

第1段階では，文献検索の第1段階で検索を行った結果から，論文数の年次推移表と，検索した論文の中から，原著論文を絞り込み，研究対象者別（看護学生・教員・看護師のみ）の表を作成した.

第2段階では，文献検索の第2段階で絞り込んだ11文献の「著者･年次」「研究対象」「使用教材」「研究の概要」を表にまとめた.

第3段階では，文献検索の第2段階で絞り込んだ11文献の中から映画およびドキュメンタリー番組の利用の効果3文献とその授業を受けた学生の認識を調査した研究3文献に分け,それぞれ「著者（年次)･タイトル」「目的・対象・方法・使用教材」「成果・考察」「研究の特徴と限界」を表にまとめた.

以下の本文および表中の[数字]で示した数字は巻末に示した文献番号である.

2.4. 倫理的配慮

文献の著作権を侵害することがないよう留意し，出典を明記した．要約に当たっては原文の意味を損ねることのないよう留意した.

3. 結果

3.1. 論文数の年次推移（表1）

検索キーワードごとの年次推移を表1に示した.

検索キーワードを「(精神看護/TH or 精神看護/AL) or 精神看護学/AL」and「(教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL」としたところ，832件（うち原著論文424件）が該当した．2001年以降5年刻みで年次推移を見たところ，2001年から2005年が140件（うち原著論文79件)，2006年から2010年が211件（うち原著論文98件)，2011年から2015年が245件（うち原著論文155件）と増加しており，2016年から2020年も213件（うち原著論文88件）と2011年から2015年までの5年間と同水準となっていた.

次に検索キーワードを「(精神看護/TH or 精神看護/AL) or 精神看護学/AL」and「(教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL」and「教材/TH or 教材/AL」とした

ところ，56 件（うち原著論文 29 件）が該当した．2001 年以降 5 年刻みで年次推移を見たところ,2001 年から 2005 年が 6 件（うち原著論文 2 件），2006 年から 2010 年が 15 件（うち原著論文 8 件），2011 年から 2015 年が 15 件（うち原著論文 10 件），2016 年から 2020 年が 20 件（うち原著論文 9 件）と「(精神看護 /TH or 精神看護 /AL) or 精神看護学 /AL」and「(教育手法 /TH or 授業 /AL) or 講義 /AL」の該当数と比較すると，約 2 ～ 10% の割合ではあるが，増加していた．

次に検索キーワードを「(精神看護 /TH or 精神看護 /AL) or 精神看護学 /AL」and「(教育手法 /TH or 授業 /AL) or 講義 /AL」and「視聴覚教材 /TH or 視聴覚教材 /AL」としたところ，27 件（うち原著論文 17 件）が該当した．2001 年以降 5 年刻みで年次推移を見たところ，2001 年から 2005 年が 3 件（うち原著論文 1 件），2006 年から 2010 年が 4 件（うち原著論文 2 件），2011 年から 2015 年が 8 件（うち原著論文 7 件），2016 年から 2020 年が 12 件（うち原著論文 7 件）と増加していた．また近年の視聴覚教材の論文数は教材全体の 5 割程度で推移していた．

3.2.　原著論文の研究ごとの分類（表 2）

検索キーワードごとの原著論文で，研究対象者が看護学生・看護教員・看護師の論文に分類し，表 2 で示した．またその研究方法を質的研究と量的研究，その他に分類した．

表 1：論文数の年次推移表（2020 年 8 月 3 日：医学中央雑誌 Web 版）

検索キーワード①「(精神看護 /TH or 精神看護 /AL) or 精神看護学 /AL」and「(教育手法 /TH or 授業 /AL) or 講義 /AL」

検索期間（西暦）年 ／ キーワード（総数/原著）論文数	2001 −2005	2006 −2010	2011 −2015	2016 −2020	総数
①　のみ	140/79	211↑/98↑	245↑/155↑	213↓/88↓	832/424
① and 「教材/TH or 教材/AL」	6/2	15↑/8↑	15→/10↑	20↑/9↓	56/29
① and 「視聴覚教材/TH or 視聴覚教材/AL」	3/1	4↑/2↑	8↑/7↑	12↑/7→	27/17

※表中↑は前の 5 年より増加，→は増減なし，↓は減少を示す

表 2：キーワードごとの研究対象（看護学生・看護教員・看護師）と研究方法の内訳

検索キーワード①「(精神看護 /TH or 精神看護 /AL) or 精神看護学 /AL」and「(教育手法 /TH or 授業 /AL) or 講義 /AL」

研究対象　研究方法 ／ キーワード	看護学生				看護教員				看護師			
	質	量	他	総数	質	量	他	総数	質	量	他	総数
①　のみ	91 (10)	107 (10)	25 (1)	213	3 (1)	5 (2)	4 (1)	10	28 (5)	37 (8)	7 (1)	66
① and 「教材/TH or 教材/AL	12	5	2	19	0	0	1	1	1 (1)	1	3 (1)	4
① and 「視聴覚教材/TH or 視聴覚教材/AL」	6	2	2	10	0	0	1	1	1 (1)	0	3 (1)	3

※数値は抽出した論文数を示す．(　) は重複，集計は原著論文のみである．

看護学生が研究対象となっている論文が一番多く，次に看護師，看護教員の順となっていた．これは教材や視聴覚教材に限定した場合においても同様の傾向にあった．また看護学生を対象とした教材や視聴覚教材に関する質的研究の割合は量的研究の倍以上となっていた．

3.3. 分析対象文献の概要（表 3）

分析対象の 11 論文の概要を表 3 にまとめた．分析対象文献の研究対象者は，大学・専門学校 1 年生が［1］と［6］の 2 文献，大学・短期大学・専門学校 2 年生が［4］,［5］,［7］,［9］,［11］の 5 文献，大学 3 年生が［2］と［10］の 2 文献だった．

研究目的は，動画利用の効果の検討が［6］,［8］,［9］の 3 文献，学生の認識の調査が［1］,［4］,［10］の 3 文献，ロールプレイ演習の評価が［2］［4］［10］の 3 文献だった．その他として VTR 教材の作成過程とその教材の学びを明らかにすることを目的とした研究が［5］の 1 文献，当事者の「語り」を導入した講義の学びを明らかにすることを目的とした研究が［7］の 1 文献だった．

以下，文献ごとに研究の概要を述べる．

［1］は，大学 1 年生を対象に，映画「ビューティフルマインド」を鑑賞後に記述されたレポートを検討していた．その結果レポートタイトルの抽出語で最も頻度が多かったのが「愛」で，共起ネットワークでは「愛」「統合失調症」「人」「周り」「支える」で 1 つのカテゴリーを生成していた．またレポート本文の抽出語で最も頻度が多かったのは「ジョン（主人公の名前）」で，共起ネットワークでは「ジョン（主人公の名前）」「アリシア（主人公の妻の名前）」「信じる」「支える」で 1 つのカテゴリーを生成していた．

［2］は，看護系大学 3 年生を対象に，学生がロールプレイ演習の映像を通して振り返ることによる学びを明らかにし，教育上の課題を検討していた．その結果【学生が問題と捉える態度】,【自分の改善点と課題】,【評価が良かった学生の気づき】,【学生と患者との相互的な影響】の 4 つのカテゴリーが生成されていた．

［3］は，看護学生を対象に，視覚教材（DVD レインマン）から自閉症スペクトラムの症状を学生が学び，映像から症状，疾病予防について考える関わり方等を言語化，文章化できたか検討していた．その結果，共感的に関わる態度や，自閉症を持つ人を理解していこうとしたこと，視覚的に教示することが見出された．

［4］は，専門学校 2 年生を対象に，自己を振り返るためのビデオ撮影を用い，精神障がいの模擬患者に対する治療的コミュニケーションができていたかを検討していた．その結果，活用できていた治療的コミュニケーションは「探索」,「反復」等で，言語的コミュニケーション行動の操作的定義では「情報提供」等がみられた．

［5］は，大学 2 年生を対象に，統合失調症の患者および家族の状況や思い，また自分の看護師としての対応を考えさせるためのシナリオ型ビデオ教材による学生の学びを検討していた．その結果，【考えられること・観察した内容】,【看護】の 2 つのカテゴリーが生成されていた．

［6］は，専門学校 1 年生を対象に，PTSD の理解を目的にドキュメンタリー番組を視聴覚教材として使用した授業の効果を検討していた．その結果，「被害者の人生に長く影響を及ぼす PTSD がよくわかり怖いと思う」,「PTSD と向き合う人の心の強さに打たれただ回復を願う」,「心に傷を負うとはどういうことかを理解しその人を支えるために必要なことがわかる」,「自信はないが心に傷を負った人にケアを提供できる看護師になりたいと思う」という 4 つの学びが得られていた．

［7］は，短期大学 2 年生を対象に，アルコー

表３：分析対象文献の概要

No.	筆者 (年次)	研究対象	使用教材	研究の概要
[1]	中川京美他 (2019)	大学1年生	映画「ビューティフルマインド」	目的：レポートを分析し、学生の学びを明らかにすること. 結果：レポートタイトルの抽出語で最も頻度が多かったのが「愛」で，共起ネットワークでは「愛」「統合失調症」「人」「周り」「支える」で1つのカテゴリーを生成していた．またレポート本文の抽出語で最も頻度が多かったのは「ジョン（主人公の名前）」で，共起ネットワークでは「ジョン（主人公の名前）」「アリシア（主人公の妻の名前）」「信じる」「支える」で1つのカテゴリーを生成していた.
[2]	重富勇　他 (2017)	大学3年生	精神看護学のロールプレイ演習における自らの援助的コミュニケーション場面の映像	目的：ロールプレイ演習における自らの援助的コミュニケーション場面の映像を通して振り返ることによる学びを明らかにし、教育上の課題について検討すること。 結果：【学生が問題と捉える態度】，【自分の改善点と課題】， 【評価が良かった学生の気づき】，【学生と患者との相互的な影響】の4つのカテゴリーが生成されていた.
[3]	平井豊美他 (2017)	看護学生	レインマン	目的：視覚教材から自閉症スペクトラムの症状を学生が学び、映像から症状、疾病予防について考える関わり方等を言語化し、文章化すること 結果：共感的に関わる態度や，自閉症を持つ人を理解していこうとしたこと，視覚的に教示することが見出された.
[4]	天野志保他 (2015)	専門学校 2年生	与薬場面のロールプレイ（ビデオ）	目的：精神障がいの対象がイメージ化しやすいように、視聴覚教材を作成し、自己の関わりを振り返るためのビデオ撮影を用いた授業を行い、精神障がいの模擬患者に対する治療的コミュニケーションができていたかについて検討する. 結果：治療的コミュニケーションは「探索」，「反復」等で，言語的コミュニケーション行動の操作的定義では「情報提供」等がみられた.
[5]	江藤和子他 (2015)	大学2年生	シナリオ型ビデオ教材「統合失調症(急性期)」	目的：精神看護学における統合失調症(急性期)の患者および家族の状況や思い、また自分の看護師としての対応を考えさせる授業展開をするためのVTR教材の作成過程と本教材の学びを学生の視点から明らかにすること. 結果：【考えられること・観察した内容】、【看護】の2つのカテゴリーが生成されていた.
[6]	清水健史 (2013)	専門学校 1年生	ドキュメンタリー番組(JR福知山線事故)	目的：PTSDの理解を目的として、ドキュメンタリー番組(JR福知山線事故)を視聴覚教材として使用し、授業の効果について検討した。 結果：「被害者の人生に長く影響を及ぼすPTSDがよくわかり怖いと思う」，「PTSDと向き合う人の心の強さに打たれただ回復を願う」，「心に傷を負うとはどういうことかを理解しその人を支えるために必要なことがわかる」，「自信はないが心に傷を負った人にケアを提供できる看護師になりたいと思う」という4つの学びが得られていた.
[7]	椎野雅代他 (2010)	短期大学 2年生	ビデオ教材 （筆者ら作成）	目的：アルコール依存症の自助グループに参加している当事者の「語り」を導入した講義を実施し、講義終了後のレポート(自由記載)の記述から、学びを明らかにし、今後の授業内容に活かすこと. 結果：【アルコール依存症患者の理解】と【飲酒乱用防止について】の2つのカテゴリーが生成されていた.
[8]	村松仁　他 (2007)	看護学生	テレビドラマ 「溺れる人」 （日本テレビ系2005年作品）	目的：アルコール依存症を取り上げたテレビドラマを教材として用い、精神看護学の授業における視聴覚教材の効果について検討する. 結果：【疾患の原因】，【治療の理解】，【家族の負担と困難】， 【アルコール依存症者への看護の動機づけ】など11のカテゴリーが生成されていた.
[９]	近藤美也子 (2006)	専門学校 2年生	「社会復帰を目指す精神障害者たち」	目的：VTRを視聴後にグループ学習を行うことが、対象を理解する過程で効果的かどうか明らかにする. 結果：人権尊重，精神疾患，看護，社会参加の4つのカテゴリーが生成されていた.
[10]	高橋香織他 (2005)	大学3年生	ビデオ（精神看護場面のロールプレイ）	目的：ビデオによる振り返りを取り入れた学習の効果を明らかにする. 結果：【自分の言動への気づき】，【自分が気づかない自分の受け入れ】， 【相手の反応への気づき】，【相手を尊重する関わりの模索】の4つのカテゴリーが生成されていた.
[11]	糸賀暢子他 (2004)	専門学校 2年生	映画「ビューティフルマインド」	目的：映画鑑賞から得られた精神障害者の理解について学生の認識傾向を明らかにする. 結果：〈精神障害の理解〉，〈心の病を持つ人の理解〉，〈精神看護の理解〉， 〈ケアの担い手の理解〉，〈人間の理解〉の5つのカテゴリーが生成されていた.

ル依存症当事者のビデオを導入した講義後に提出されたレポートから学生の学びを検討していた．その結果，【アルコール依存症患者の理解】と【飲酒乱用防止について】の2つのカテゴリーが生成されていた．

[8]は，看護学生を対象に，アルコール依存症を取り上げたテレビドラマを教材として用いた効果を検討していた．その結果，【疾患の原因】，【治療の理解】，【家族の負担と困難】，【アルコール依存症者への看護の動機づけ】など11のカテゴリーが生成されていた．

[9]は，専門学校2年生を対象に，VTRを視聴後にグループ学習を行うことが，対象を理解する過程で効果的かどうかを検討していた．その結果，人権尊重，精神疾患，看護，社会参加の4つのカテゴリーが生成されていた．

[10]は，大学3年生を対象に，ロールプレイング演習で看護師役を演じたビデオを見ての学びを検討していた．その結果，【自分の言動への気づき】，【自分が気づかない自分の受け入れ】，【相手の反応への気づき】，【相手を尊重する関わりの模索】の4つのカテゴリーが生成されていた．

[11]は，専門学校2年生を対象に，映画「ビューティフル・マインド」の鑑賞から得られる精神障害者の理解についての学生の認識を検討していた．その結果，<精神障害の理解>，<心の病を持つ人の理解>，<精神看護の理解>，<ケアの担い手の理解>，<人間の理解>の5つのカテゴリーが生成されていた．

3.4. 動画利用の効果を検討した研究結果および特徴（表4）

動画利用の効果を検討した3文献の研究結果および特徴の概要を分析し，クリティークした結果を表4に示した．

動画利用の効果を検討するための方法として，学生のレポートからデータを抽出し，KJ法を用いた分析を行っているものが2文献，視聴覚教材を視聴後にグループ学習をし，グループ学習前後でアンケート調査を実施し，比較をしたものが1文献であった．

［6］の文献は動画視聴した学生は専門学校1年生であった．学びの内容は主に4つという結果で，「被害者の人生に長く影響を及ぼすPTSDがよくわかり怖いと思う」「PTSDと向き合う人の心の強さに打たれただ回復を願う」「心に傷を負うとはどういうことかを理解しその人を支えるために必要なことがわかる」「自信はないが心に傷を負った人にケアを提供できる看護師になりたいと思う」であった．看護基礎教育における学生のPTSDの理解に一定の効果があったと述べられていた．

［8］の文献はテレビドラマ「溺れる人」（日本テレビ系2005年作品）を用いて，学生の感想文の自由記述部分をデータとして，KJ法による分析を行っていた．結果は【疾患の原因】，【疾患の理解】，【治療の理解】，【家族の負担と困難】，【家族が支えることの大切さ】，【アルコール依存症者への看護の動機づけ】，【アルコール依存症者の家族への看護の動機づけ】，【アルコール社会への批判】，【自己の振り返り】，【ドラマの長短】，【ドラマと講義の相違性】の11カテゴリーが抽出されていた．学生の学年表記がなかった．

［9］の文献は対象が専門学校2年生で，VTR視聴後に個人でレポートをまとめたことで，学生自身が対象に対する恐怖や偏見があること，対象と同じような弱さや傷つきやすさが自分の中にもあることに漠然と気づくことができていた．グループ学習での体験を通して，VTRの中に登場した当事者が特別な存在ではないことを理解したことが，対象理解につながっていた．

3.5. 学生の認識を調査した研究結果および特徴（表 5）

学生の認識を調査した 3 文献の研究結果および特徴の概要を分析し，クリティーク結果を示した．

［1］と［11］の文献は映画「ビューティフルマインド」教材として使用していた．ただし，研究対象者は［1］の文献では大学 1 年生，［11］の文献では，専門学校 2 年生であった．［1］の文献では「人としての理解」が中心で，［11］の文献では「障害を持った人」という認識であった．

［1］の文献では，学生は統合失調症の特徴や症状の一部，患者や家族の思い，疾患を抱えながらも人生を歩むことができるということを学ぶことができていた．精神に障害をもつ人を一人の人として捉える視点を養っていた．また学生の捉え方はさまざまであることを示されていた．

［11］の文献は，学生は回復過程や受容過程における“変化”に注目し，考えを深めている傾向にあった．また学生は患者や家族に対する感性的反応を“観る”という行為から起こし，現象の理解・解釈をするときに“知識”を活用していた．結果として，精神障害の理解，心の病を持つ人の理解，精神看護の理解，ケアの担い手の理解，人間の理解が抽出されていた．

［3］の文献では教材として映画「レインマン」を使用し，テキストマイニングを使用した質的分析を行っていた．「伝える」「理解する」「大切に思う」という思考・行動パターンが存在し，共感的にかかわる態度があった．「生活」「人」「考える」「兄」が抽出され，「生活のなかで自閉症を持つ兄について考える」という自閉症を持つ人の理解を促進していた．また「視覚に教示する」が見いだせていた．

4. 考察

論文数の年次推移，動画利用の効果を検討した研究，学生の認識を調査した研究の 3 点について以下に述べる．

4.1. 論文数の年次推移

精神看護学領域における視聴覚教材に関する研究論文数は表 1 に示した通り近年増えていた．これは授業の教材として視聴覚教材が定着してきていることを示していると考えられる．その中でも映画や報道ドキュメンタリー動画の研究が見受けられ，谷本[8]の看護系大学における精神看護学教育の内容と課題という研究結果の中で視聴覚教材の不足があげられていたが，2006 年以降視聴覚教材の研究が増加傾向にあることから，映画等の選択できる視聴覚教材のバリエーションも増えてきていると考えられる．

また，教材に関する研究の中で，視聴覚教材の占める割合が約 5 割あった．小田嶋らが看護教育・看護継続教育における教材開発検証研究の動向の中で分析対象とした文献の 50.0% が視聴覚教材だったという結果を示している[11]ことから，精神看護学でも同様の傾向があると考える．しかし，表 2 で示した通り，教育方法の研究では量的な研究と質的な研究がともに行われていたが，教材に関する研究では量的な研究・質的な研究ともに論文数が少なく，原著論文も少なかった．また，視聴覚教材ではその論文数や全体の教育方法の研究の 1 割にも満たず，表 3 において分析対象文献を概観しても，教材としての機能を評価した実証的な研究が見受けられなかった．よって，今後精神看護学の視聴覚教材の研究ではより質的研究を充実させることで，量的な研究につなげていくこと，目的に応じて適切な研究手法を選択し，量的な研究・質的な研究の両面から効果的な視聴覚教材の活用方法を検証していくことが課題とな

表 4：動画利用の効果を検討した研究結果および特徴

No.	筆者（年次） タイトル	①目的　②対象 ③方法　④使用教材	結果・考察	研究の特徴と限界
[6]	清水健史 (2013) 看護基礎教育におけるPTSD(外傷後ストレス障害)の理解に視聴覚教材を取り入れた授業の効果	①授業の効果についての検討 ②専門学校1年生 ③自由記述によるアンケート調査．KJ法のラウンドの手法に基づいて総合した ④ドキュメンタリー番組(JR福知山線事故)	「被害者の人生に長く影響を及ぼすPTSDがよくわかり怖いと思う」「PTSDと向き合う人の心の強さに打たれただ回復を願う」「心に傷を負うとはどういうことかを理解しその人を支えるために必要なことがわかる」「自信はないが心に傷を負った人にケアを提供できる看護師になりたいと思う」の四つの学びが得られていた．	4つの学びを結果において図で示し，構造化を図っていた．看護基礎教育における学生のPTSDの理解に一定の効果があったことが示唆された．KJ法を用いていたが，この研究者がKJ法の分析について研修を受けたなどの記載は見当たらなかった．そのため，結果の構造化した内容の妥当性が評価できず，限界があると考えられた．
[8]	村松仁他 (2007) 精神看護学の授業における視聴覚教材の効果の検討	①精神看護学の授業における視聴覚教材の効果についての検討 ②不明 ③感想の自由記述．KJ法による分析 ④テレビドラマ「溺れる人」（日本テレビ系2005年作品）	【疾患の原因】【疾患の理解】【治療の理解】【家族の負担と困難】【家族が支えることの大切さ】【アルコール依存症者への看護の動機つけ】【アルコール依存症者の家族への看護の動機づけ】【アルコール社会への批判】【自己の振り返り】【ドラマの長短】【ドラマと講義の相違性】の11のカテゴリーが生成されていた．	KJ法による分析を試みており，構造化は示されていなかったが，11カテゴリが抽出されていた．精神障害の中でもアルコール依存症が独特な精神構造を有していることなどから，対象の理解がより困難であると研究者は述べていた．また対象者のみならず，学生は家族関係や家族援助の学びを得ていたことから，視聴覚教材を活用する有用性があると述べていた．また［6］の論文同様に研究者の分析資格について記載がなく，分析内容の妥当性が評価できないと考えられた．
[9]	近藤美也子 (2006) 精神疾患を有する対象の理解を高めるための授業検討	①VTRを視聴後にグループ学習を行うことが，対象を理解する過程で効果的かどうか明らかにする ②専門学校2年生 ③個人学習のレポート内容の気づきから，15項目のキーワードを抽出して，VTR教材の学ばせたい内容の4つのカテゴリーに分類．気づきの記述数を点数化し，t検定により学習前と学習後の平均の有意差を求めた． ④「社会復帰を目指す精神障害者たち」	VTR視聴後に個人でレポートをまとめたことで，学生自身が対象に対する恐怖や偏見があること，対象と同じような弱さや傷つきやすさが自分の中にもあることに漠然と気づくことができていた．グループ学習での体験を通して，VTRの中に登場した当事者が特別な存在ではないことを理解したことが，対象理解につながっていることが窺えた．	グループ学習において，15項目の気づきがデータ（提出レポート）から抽出されており，そのうちグループ学習において，12項目で前後の項目別数の変化があり，有意差（P<0.05）が認められたと示されていた．ただし有意差のあった項目のうち，10項目が増えており，2項目が減っていて，有意差を認めていたが，その増減別の考察が不十分であったことが研究の限界と考えられる．

表 5：学生の認識を調査した研究結果および特徴

No.	筆者（年次） タイトル	①目的　②対象 ③方法　④使用教材	結果・考察	研究の特徴と限界
[1]	中川京美他 (2019) 映画「ビューティフルマインド」鑑賞による精神看護学での学びの検討	①レポートを分析し、学生の学びを明らかにする ②大学1年生 ③ワード入力したデータをKH Coder 3に読み込み，抽出語リストや共起ネットワーク，KWICコンコーダンスなどの分析 ④映画「ビューティフルマインド」	レポートタイトルの抽出語で最も頻度が多かったのが「愛」で，共起ネットワークでは「愛」「統合失調症」「人」「周り」「支える」で1つのカテゴリーを生成していた．またレポート本文の抽出語で最も頻度が多かったのは「ジョン（主人公の名前）」で，共起ネットワークでは「ジョン（主人公の名前）」「アリシア（主人公の妻の名前）」「信じる」「支える」で1つのカテゴリーを生成していた．	学生は統合失調症の特徴や症状の一部，患者や家族の思い，疾患を抱えながらも人生を歩むことができるということを学ぶことができていた．精神に障害をもつ人を一人の人として捉える視点を養っていた．また学生の捉え方はさまざまであることを示されていた．この研究は1年生を対象としたという特徴があるが，服薬・治療継続の必要性が表現されていないのは、疾患論を学んでいない対象者の特徴とも考えられる．
[3]	平井豊美他 (2017) 看護学生が学ぶ自閉症の理解を深める教材についての検討	①視覚教材から自閉症スペクトラムの症状を学生が学び、映像から症状、疾病予防について考える関わり方等を言語化し、文章化すること ②不明 ③テキストマイニング，アンケート，KHCoderを使用した質的分析 ④レインマン	共感的に関わる態度や，自閉症を持つ人を理解していこうとしたこと，視覚的に教示することが見出された．	「伝える」「理解する」「大切に思う」という思考・行動パターンが存在し，共感的にかかわる態度があった．「生活」「人」「考える」「兄」が抽出され，「生活のなかで自閉症を持つ兄について考える」という自閉症を持つ人の理解を促進していた．その一方で学生の背景（学年・学習進度等）やアンケート調査内容が明確に示されていないため，結果および考察の読み取りが難しかった．
[11]	糸賀暢子他 (2004) 精神看護学授業におけるビデオ教材の意義	①映画鑑賞から得られた精神障害者の理解について学生の認識傾向を明らかにする ②専門学校2年生 ③ベレルソンの内容分析法を用いた分析 ④映画「ビューティフルマインド」	〈精神障害の理解〉， 〈心の病を持つ人の理解〉， 〈精神看護の理解〉，〈ケアの担い手の理解〉，〈人間の理解〉の5つのカテゴリーが生成されていた．	学生は回復過程や受容過程における“変化”に注目し，考えを深めている傾向にあった．また学生は患者や家族に対する感性的反応を“観る”という行為から起こし，現象の理解・解釈をするときに“知識”を活用していた．結果として，精神障害の理解，心の病を持つ人の理解，精神看護の理解，ケアの担い手の理解，人間の理解が抽出されていた．一方で学生の“認識傾向”から，カテゴリーとサブカテゴリーの関係性も示されていないため，結果が読み取りにくかった．

る．

4.2. 動画利用の効果を検討した研究

動画利用の効果を検討した分析対象文献は3文献と少なく，その内訳は学生のレポートからデータを抽出し，KJ法を用いた分析を行っているものが2文献，視聴覚教材を視聴後にグループ学習をし，グループ学習前後でアンケート調査を実施し，比較をしたものが1文献のみであった．本来，教材の活用は「授業において指導すべき教育内容を学習者の学習課題として具体化した材料である」[5)]と述べられており，学生の反応を調査することにとどまらず，指導すべき教育内容と視聴覚教材が合致しているかを十分に検討したうえで視聴覚教材を決定し，評価する必要がある．しかし，精神看護学領域の視聴覚教材の研究においてその検討が十分になされている論文は見当たらなかった．また，授業全体の指導内容の中で，視聴覚教材がどの部分を担うかを整理している論文も見当たらなかった．そのため，大河原が指摘する「教材として活用する映像を選択し，授業で映写する際には視聴する目的を説明し，視聴後の振り返りを効果的に行うことが，大切な授業設計であると考えられている」[9)]という点が十分行われていない可能性が示唆された．学生に視聴覚教材を提供する際の説明では，視聴覚教材に指導内容のどの部分を担わせているかという教員の意図が明確でないと，学生には視聴覚教材のデメリットとして指摘されている①学習者の集中が続かない②教材の目的が伝わりにくい③教員と学生とのコミュニケーション不足が生じやすい[6)]という点のみが伝わってしまう可能性がある．

4.3. 学生の認識を調査した研究

学生の認識については，筆者の所属する大学でも採用している映画「ビューティフルマインド」を用いた研究が2文献あった．これらはテキストマイニングを用いて学生の認識を分析した内容で，それぞれの1クラス単位の学生が認識した内容を示していた．またその認識の強弱についてもテキストマイニングの特徴である分析が進められていて，示唆に富む内容であった．これらの研究結果から，視聴覚教材を選択する段階で以下の2点の検討が重要になると考える．

1点目は，その視聴覚教材を用いて教員は何を指導したいと考えているか，目標設定や教材の機能を十分理解した上で，目標設定できているかということである．鈴木は「教育における評価とは，学習者が達成した成果を明らかにするものであり，提供されている教育サービスの質や責任を保証する手段にもなる」[4)]と述べ，さらに「教育評価を効果的に行うためには，目標が明確にされなければならない」[4)]と述べている．したがって教員は指導内容を精査し，視聴覚教材にどの部分を担わせるかという目標設定を明確にした上で，視聴覚教材の選択をする必要がある．

2点目は，その教材を視聴する時期の検討が十分になされているかということである．同じ視聴覚教材を用いても，学習時期が異なると学習内容が異なる可能性があるため，精神看護学全体のカリキュラムの中での位置づけを明確にする必要があると考える．

以上のことから，教員は視聴覚教材を用いる目的を明確にするとともに，学生がどの時期に視聴するかを十分に検討した上で視聴覚教材を選択・決定することが重要であると考える．

5. 研究の限界と今後の課題

本研究は精神看護学領域の国内の文献に限定して検討したため，検討文献数に限りがあった．外国の文献を検討する際には，その国の文化や精神保健医療福祉の現状も影響すると考えられるため，この点が本研究の限界

であると考える．

また筆者の今後の課題は以下の３点である．１点目は精神看護学概論で採用している映画「ビューティフルマインド」の教材の機能や教員の指導内容，学生の学習目標を整理することである．２点目は学生が映画を視聴したことによる学びを評価するツールを，尺度の開発等も視野に検討することである．３点目は精神看護学や看護学に限定せず，教育学における視聴覚教材の効果の検証方法など学際的に研究方法を取り入れることを検討することである．

これらの課題に取り組むことは，授業設計から授業全体の目標の明確化につながるとともに，教育効果の向上にもつながると考える．

本研究を通し，カリキュラム全体からその視聴覚教材を効果的に活用できる授業を構築していく必要性を再認識することができた．

＊本論文では障碍者の表記について
障碍者の表記については日本精神科看護協会（2016）の障がい者の表記の基準に準じて，引用文献で「障害者」となっているものは「障害者」とする．それ以外の表記については，「障碍者」とする．制度名や人を指さないものについては，障害と表記する．

分析対象文献

[1] 中川京美，田沼佳代子，田邊要補他：映画「ビューティフルマインド」鑑賞による精神看護学での学びの検討．高崎健康福祉大学紀要，18：25~36，2019

[2] 重富勇，堂下陽子：精神看護学演習のロールプレイ体験による学習効果と教育上の課題　視聴覚教材による振り返りに焦点をあてた検討．長崎県立大学看護栄養学部紀要，16：11~17,2018

[3] 平井豊美，幸島美絵，神崎秀嗣：看護学生が学ぶ自閉症の理解を深める教材についての検討　DVDレインマンを鑑賞後のPDD理解についてのアンケートから得た知見．大和大学研究紀要（保健医療学部編），3：77~85，2017

[4] 天野志保，安藤暢洋，後藤尚子他：精神障がいの対象理解を深める授業方法　視聴覚教材を用いることの学習効果．中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌，11：283~286，2016

[5] 江藤和子，椎野雅代，宮原舞子他：精神看護学における映像教材の有効性の検討　ビデオ教材の作成過程と評価．日本精神科看護学術集会誌，58-2：244~248，2015

[6] 清水健史：看護基礎教育におけるPTSD（外傷後ストレス障害）の理解に視聴覚教材を取り入れた授業の効果　JR福知山線脱線事故のドキュメンタリー番組を用いて．日本看護学会論文集　看護教育，43：62~65，2013

[7] 椎野雅代，江藤和子，三浦達也：アルコール依存症の講義の評価　当事者の「語り」のビデオを導入した学生のレポート分析から．横浜創英短期大学紀要，6：83~88，2010

[8] 村松仁，清水健史：精神看護学の授業における視聴覚教材の効果の検討．日本看護研究学会雑誌，30-3：239，2007

[9] 近藤美也子：精神疾患を有する対象の理解を高めるための授業検討　ケアリング体験によるグループ学習の効果．日本看護学会論文集　看護教育，37：165~167，2007

[10] 高橋香織，片岡三佳，池邉敏子：精神看護場面のロールプレイング演習にビデオの振り返りを取り入れた学び．岐阜県立看護大学紀要，5-1：41~46，2005

[11] 糸賀暢子，西原みゆき：精神看護学授業におけるビデオ教材の意義　「ビューティフル・マインド」鑑賞後の学生の精神障害者に対する認識傾向．日本看護学教育学会誌，14，学術集会講演集：182,2004

2019

引用文献

1）　武井麻子：B. 精神看護学とその課題．系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学②　第５版,8, 医学書院，東京,2017

2）　Mentalhealth:strengtheningour respone Fact sheet Updated April 2016 http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs220/en/（Accessed at August 13, 2020）

3）　金山正子他：精神病に対する看護学生の意識の構造（2）－入学形態，成績，接触経験，入学年度による検討．日本看護研究学会雑誌，15-1：65~72，1992

4）　鈴木啓子：看護教育と評価．実践精神科看護テキスト改訂版　第７巻　看護教育/看護研究，54~55, 精神看護出版，東京，2011

5）　山口満：教材とは．「教材学」現状と展望　上巻(澤崎眞彦)，22, 共同出版，東京，2008

6）　辻義人：視聴覚メディア教材を用いた教育活動の展望－教材の運営・管理と著作権－．小樽商科大学人文研究第115：175~194，2008

7）　篠原由利子：映像から学ぶ精神障害者の病の体験．福祉教育開発センター紀要：37~51,2015

8）　谷本千恵：看護系大学における精神看護学教育の内容と課題．石川看護雑誌，12：85~92,2015

9）　大河原清：映像教材．「教材学」現状と展望　上巻（澤崎眞彦）,108~109, 共同出版，東京，2008

10）古藤泰弘：教材の種類・形態とその働き．「教材学」現状と展望　上巻（澤崎眞彦）,68, 共同出版，東京,2008

11）小田嶋裕輝，古都昌子：看護教育・看護継続教育における教材開発検証研究の動向．日本看護医療学会雑誌，21-1：1~13,